

第一部 若きシュタイナーとその時代

1 光・自然・幾何学

シュタイナー誕生前夜 光と自然の幼児体験  
内と外とが両立する幾何学世界 すべてが結びつく世界への渴望

2 遍歴する魂

導き手との運命の出会い 高位フリーメイソンと遭遇？  
ウィルヘルム・マイスター シュタイナーのカルマ

3 オカルト結社

結社の三つの階梯 「霊主体従」の根本思想  
ユングも悩んだ共時性 入社二つのイニシエーション

4 フリーメイソンの神話

フリーメイソンのカインとアベル 神殿伝説  
秘儀体験を象徴する入社式 感情の共有

5 フリーメイソンの本質

ホッホグラデーの伝説 ホッホグラデーの宣言書  
知られざる導師 ウィーン時代の多彩な交遊  
教育・治療への開眼

6 ゲーテからの出発

認識上の二つの問題 有機的な世界の捉え方  
ゲーテの自然観 古代の洞察 概念の生動化

7 生命ある認識論へ

植物の生命プロセス 美の体験は追創造  
霊的本性の個性化 大自然の霊的創造力

8 意志の自由

悪の力を評価するサロン 自由の哲学の原細胞  
神への讚美と人間の主張 ゲーテに没頭したワイマール時代  
会うことのなかった知人 ニーチェとの邂逅

9 超感覚的世界の獲得

五感を超えた知覚 魂の体験 ベルリン・新時代への予兆

10 認識への道

神智学協会に入会 人智学協会の設立

第二部 シュタイナー書簡集……………167

第三部 資料編……………265

I ……ヴォルフとブルックナー——出会うのと別れの時……………266

………エクスシュタインの著作より……………285

II ……シュタイナー全著作集……………319

III ……シュタイナー年譜……………323

あとがき……………